

小学校社会科における授業研究方法論の構築

佐藤 克士，埴岡 靖司，三嶋 範嗣，吉水 裕也

1 研究目的

昨今，教師の授業力向上に向けた取り組みが全国各地で展開されている。教科指導においては，ある単位時間の授業を開発・実践し，それを他の参観者を交えて検討する「授業開発・実践」と「授業分析・評価」をセットで行う授業研究が一般的である。しかし，このような授業研究において，授業を分析する視点が授業者及び参観者に共有されていないために思いつきの感想を発表し合う場と化し，議論が深まらないこと(井上,2011)や（教師の）授業技術の検討に留まり，授業者の授業の意図と授業の事実在即した授業研究になっていないこと(田口,2011)等が課題として指摘されている。

本研究では，上記のような授業研究の課題を踏まえ，授業者及び参観者双方の授業力向上を保障する授業研究方法論を，小学校社会科を事例に提案することを目的とする。具体的には，実際の学校現場で活用可能な「社会科授業開発・分析ワークシート」を作成し，その有効性を検証する。

2 研究仮説

これまで社会科教育学研究が提示してきた「授業開発研究」と「授業分析研究」の成果を踏まえた「社会科授業開発・分析ワークシート」を作成し，それを活用した授業研究を行えば，「授業開発・実践」における論理実証性が保障されるとともに，授業者の主体性を踏まえた（統一した分析視点に基づく）客観的な「授業分析・評価」が可能となり，授業者及び参観者双方の授業力向上に資する授業研究となるであろう。

3 研究方法

- (1) 先行研究の成果をもとに，授業者及び参観者双方の授業力向上に資する授業研究の理論と方法を整理する。
- (2) (1)をもとに「社会科授業開発・分析ワークシート」を作成し，その有効性を検証する（検証 1）。
- (3) (2)の結果を踏まえ「社会科授業開発・分析ワークシート」を修正する。
- (4) 「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」の有効性を検証する（検証 2）。

4 研究内容

(1) 授業者及び参観者双方の授業力向上に資する授業研究の理論と方法

これまで社会科教育学研究は，学校現場における社会科授業研究の課題に対して，目標・内容・方法を貫く授業構成論を明示し，「授業理論」，「授業構成」，「授業実践」，「授

業評価」を基本的枠組みとする方法に基づき、論理実証的に説明する「授業開発研究」の方法論や、実践の事実を確定し、その分析を通して授業構成論を抽出するとともに、実践と理論のズレを指摘し、改善の手立てを論じる「授業分析研究」の方法論を提案してきた(梅津,2013) (図 1)。

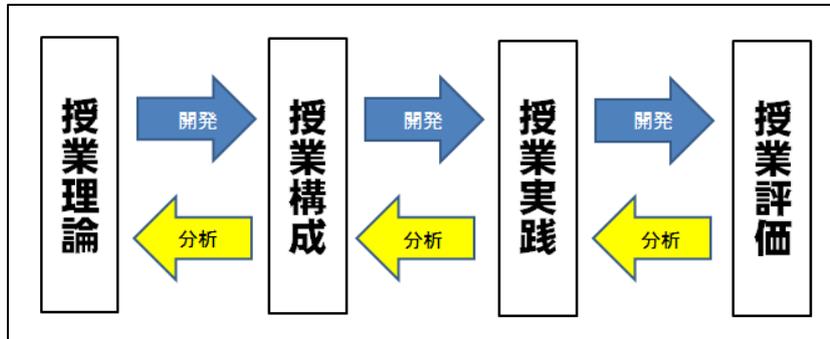


図 1 社会科授業研究の基本枠組み (梅津, 2013 をもとに筆者作成)

本研究では、批判可能性を高め、その科学化に貢献してきた 2 つの授業研究方法論を基盤に、学校現場での実現可能性を視野に入れた「社会科授業開発・分析ワークシート」を作成し、それをもとに上述した研究仮説の有効性を検証することとした。その際、「授業開発・実践」に関しては佐藤・吉水(2014)を、「授業分析・評価」に関しては棚橋(2007)の研究成果を踏まえ、授業者及び参観者双方の授業力向上に資する授業研究の理論と方法を以下の図のように整理した (図 2)。

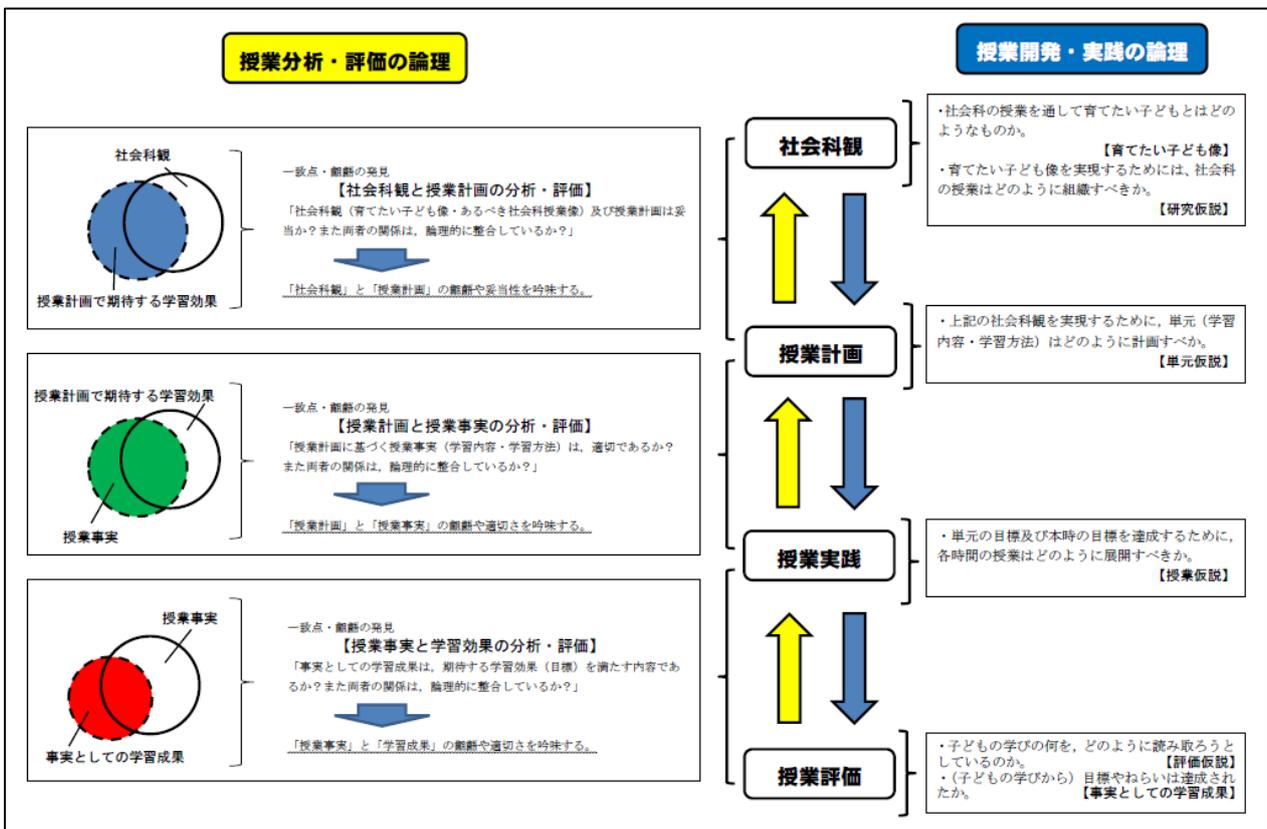


図 2 授業者及び参観者双方の授業力向上に資する授業研究の理論と方法 (先行研究をもとに筆者作成)

(2) 検証1 (岐阜県山県市伊自良南小学校)

A: 「授業開発・実践」

実践に先立ち、上記の理論を踏まえた「社会科授業開発・分析ワークシート (図3)」を作成した。また検証に際し、埴岡 (授業者) には「授業開発・実践」を依頼し、佐藤と吉水 (研究者) が「授業分析・評価」をコーディネートすることとした。

なお「授業開発・実践」を依頼するにあたり、埴岡には以下の点を要請した。

- ① 自身の問題意識に基づき、自由かつ大胆に授業を開発・実践すること。
- ② 学習指導案には、授業者の意図や論理 (「なぜ、そのように考えたのか」) を明確化するため各段階において仮説 (「研究仮説」「単元仮説」「授業仮説」「評価仮説」) を明示すること。
- ③ ②は、学習指導案とは別に、「社会科授業開発・分析ワークシート」に整理し、授業研究前に参観者に配布すること。

佐藤と吉水は、埴岡の問題意識 (主体性) を尊重しつつ、相談を求められた際に助言を行った。具体的には、「社会科観」- 「授業評価」に至る「授業開発・実践」の論理 (= 仮説) の書き方について助言した。

B: 「授業分析・評価」

「授業分析・評価」を行うにあたり、当日埴岡の実践を参観した計5名で授業検討会を実施した (佐藤・埴岡・吉水を含む)。授業検討会では、まず佐藤が本研究の主旨について説明した (図2)。次に埴岡が本実践における授業者の意図 (「社会科観」- 「授業評価」に至る論理) について説明した (図3)。その後、参加者で埴岡実践及び「社会科授業開発・分析ワークシート」を活用した授業研究の有効性や妥当性について協議した。

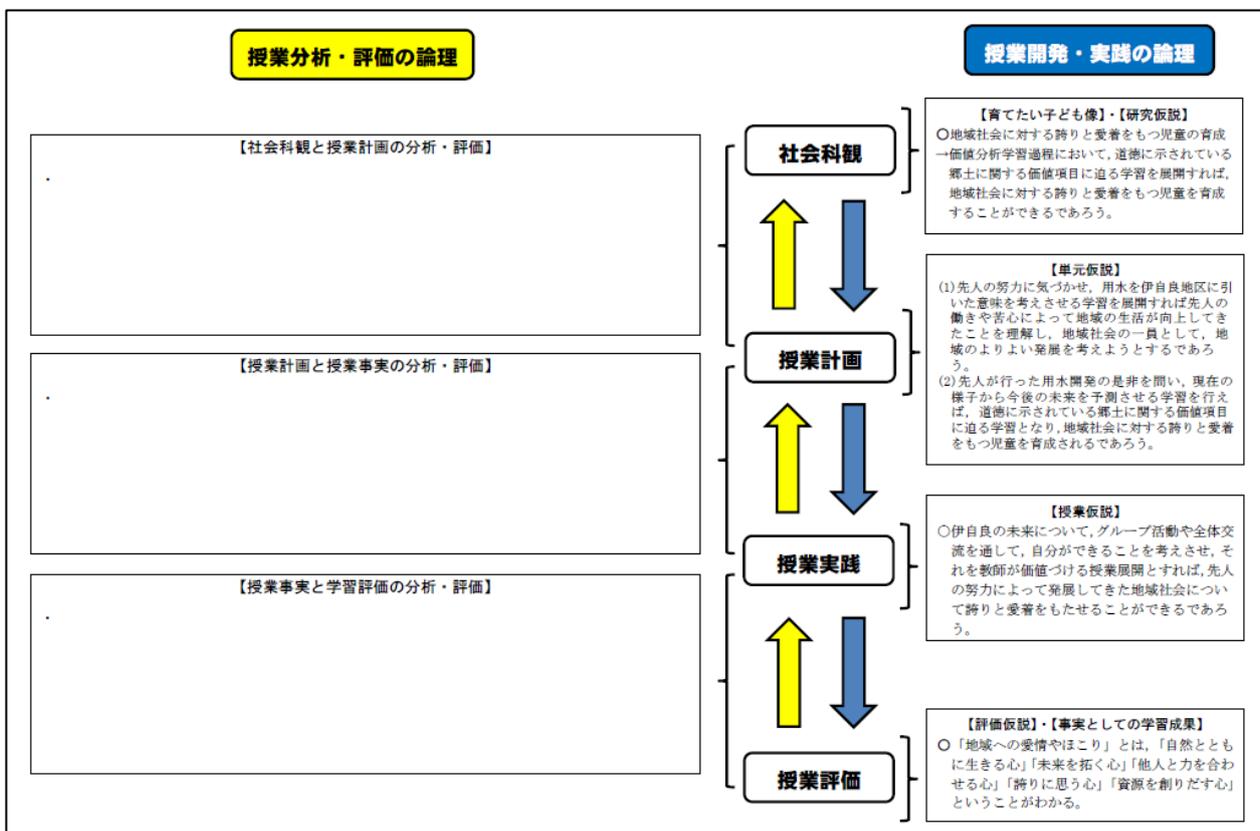


図3 「社会科授業開発・分析ワークシート」 (筆者作成)

「社会科授業開発・分析ワークシート」を活用した授業研究について参加者からは、次のような意見が出された（表1）。

表1 「社会科授業開発・分析ワークシート」を活用した授業研究に対する意見

◎肯定的な意見、▲修正を求める意見

参加者の意見	
◎	「ワークシート」に基づいて授業分析を行うことで、授業者がどういう意図で授業を作ったのかが系統的に理解することができる。
◎	授業を作る際、このような「ワークシート」があると、事前に自分の考えを整理して授業や検討会に臨むことができる。
◎	予め「授業開発・実践」と「授業分析・評価」の視点が示されているので、やり方さえ慣れば、表面的な議論に留まらず、普段あまり意識しない「社会科観」まで総合的に分析することができるので有効だと思う。
▲	「ワークシート」を使うことで何を分析すればよいかは分かったが、いざそれ（分析した内容）を書くとなると難しい。
▲	「授業開発・実践の論理」と「授業分析・評価の論理」は、逆の方が見やすい。
▲	「評価仮説」には何を書けばよいか分かりにくい。
▲	授業者の意図の妥当性やその論理を検討するのであれば、目標一手だての関係を分析・評価する内容にした方が分かりやすい（例えば、○×△等）。
▲	授業を分析する際には、実践者の各段階の説明を聞きながら「社会科観」（上段）から分析するより、「子どもの学び」（下段）から「社会科観」（上段）を分析した方がやりやすいのではないか。

（授業検討会の議論をもとに筆者作成）

(3) 「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」の作成

表1の意見をもとに、「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」を作成した（図4）。

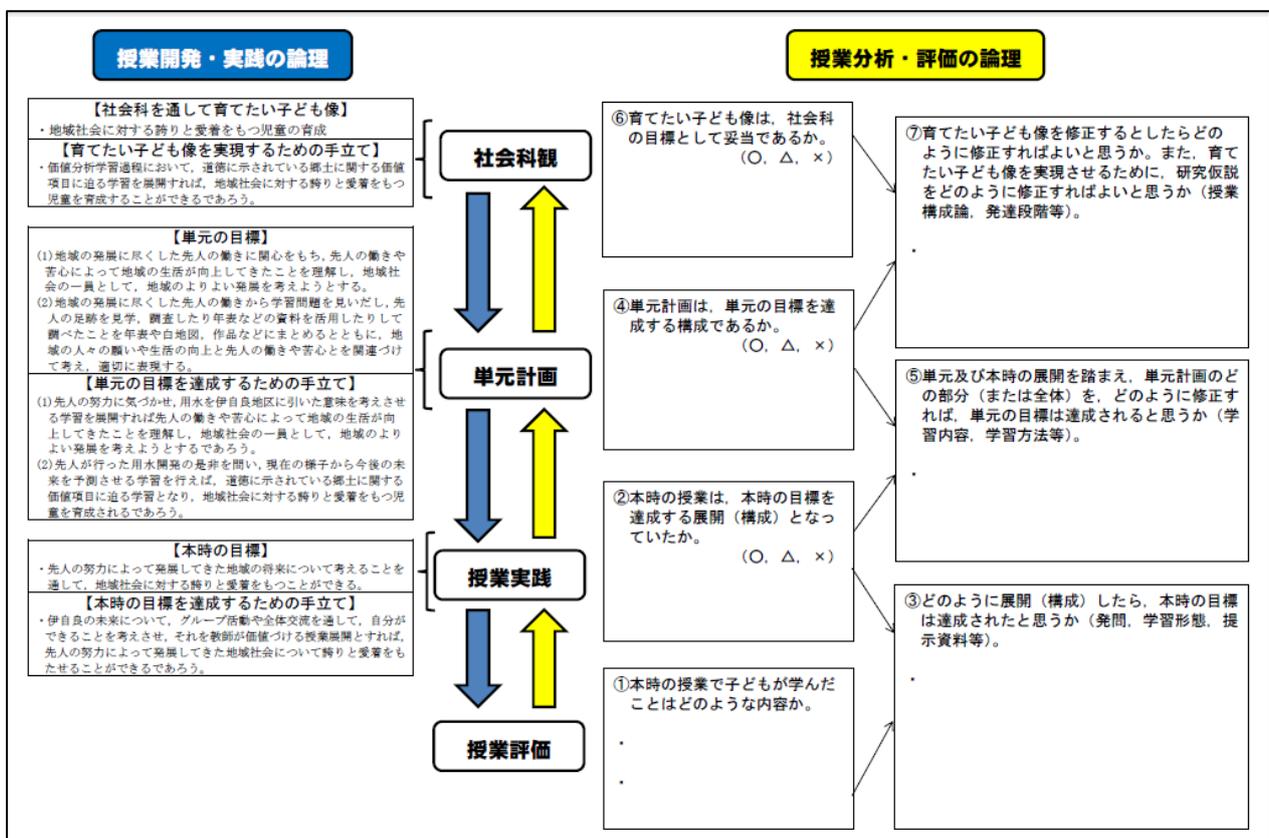


図4 「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」（筆者作成）

(4) 検証 2 (共栄大学)

上記で作成した「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」の有効性は、教員研修会（「テーマ：小学校社会科授業研究の理論と実践(180 分間)」で検証した（対象：教職歴 10 年以上の教員 12 名）。なお、検証は以下のような手順で進めた。

- ① 「授業者及び参観者双方の授業力向上に資する授業研究の理論と方法（図 2）」と「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート（図 4）」について説明する。→(25 分)
- ② 学習指導案（埴岡作成）から「授業開発・実践の論理（図 4 左側）」に該当する箇所を抽出し、整理する。→(25 分)
- ③ 各自が抽出・整理した内容をグループ内（1G=4 名）で確認する。→(15 分)
- ④ 授業映像を視聴(45 分)しながら、「授業分析・評価（図 4 右側）」を行う。→ (20 分)
- ⑤ 各自が「授業分析・評価」した内容をグループ内で協議する。→(20 分)
- ⑥ グループ内で協議した内容を全体で共有する。→(10 分)
- ⑦ 参加者の議論を踏まえ、講師（佐藤）が総括する。→(15 分)
- ⑧ 「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」を活用した授業研究の有効性や妥当性について感想を書く（自由記述）。→(15 分)

「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」を活用した授業研究について、参加者からは次のような意見が出された（表 2）。

表 2 「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」を活用した授業研究に対する意見
◎肯定的な意見、▲修正を求める意見

参加者の意見
◎ 予め「授業分析・評価」の視点が示された状態で授業を分析するので、とてもやりやすかった。
◎ 提示された「ワークシート」は社会科に限らず他教科でも応用できると思った。
◎ 「授業開発・分析ワークシート」を使えば、授業を客観的に捉えることができ、今後の教育実践の場でも活用していきたいと思った。
◎ 授業研究では目標・仮説・計画・事実の整合性や妥当性を検討することが重要であることがわかった。また、それらを考えていく上で今回配られた「ワークシート」は大変有効であると思った。
◎ これまで研究協議会では、自分の分析方法で良いのか自信が持てずなかなか発言できないでいたが、本日の講習を通して、どのような視点で授業を分析すればよいか分かり少し自信が持てた。
◎ 「授業開発・分析ワークシート」を使用することで、自らの指導案作成に役立てたり、研究協議会で分析する視点として共有化したりできることを学んだ。また、授業を分析する際、「授業の事実（子供の学び）」と「本時の目標」などの前後の関係性を分析することで授業の事実から単元計画、授業者の社会科観までトータルに分析できることがわかった。
◎ 協議会ではいつも、一体授業の何をどのように分析し発表したらよいか分からなかったが、今日の講習で配られた「ワークシート」を基に考えてみると、これなら自分でも授業のどこを、どのように見たら分析したことになるのかが明確になった。これらの視点をもとに自分の授業（研究授業）を様々な先生に見てもらえば、協議会での議論も噛み合ったものとなり、自分の授業力向上にもつながると感じた。
◎ 授業を開発（作る）する際には、「社会科観」や「目指す児童像」を明確にして臨むことが最も重要であると感じた。「授業開発・分析ワークシート」を活用した授業分析の方法は、授業者を尊重できる手段であり、授業者の主体性に基づく授業研究を行う上で有効なツールだと思った。現場に帰ったら指導案を書く際に活用したい。また、同僚にも広げていきたいと思う。

※ ▲修正を求める意見は特になかった。

（参加者の感想をもとに筆者作成）

5 成果と課題

本研究の目的は、現在、授業研究の課題として指摘されている内容を踏まえ、「授業開発・実践」と「授業分析・評価」をセットで行う授業研究において授業者及び参観者の授業力向上に資する「社会科授業開発・分析ワークシート」を作成し、その有効性を検証することであった。

本研究の成果は、第一に、これまで社会科教育学研究が提示してきた「授業開発研究」と「授業分析研究」の成果を踏まえて「社会科授業開発・分析ワークシート」作成したことである。第二に、本研究で作成した「社会科授業開発・分析ワークシート」及び「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」の検証を通して、「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」を活用した授業研究が、授業者及び参観者の授業力向上に資する方法としてある程度有効的であることが認められたことである。具体的には、教職歴10年以上の教員12名を対象に行った調査結果から、現在、社会科授業研究において課題とされている事柄（議論が深まらないことや、授業者の授業の意図と授業の事実とに即した授業研究になっていないこと等）を克服する有効なツールとして活用できる可能性が高いことが示唆された。

今後は、「改善版：社会科授業開発・分析ワークシート」を活用した授業研究の有効性を引き続き学校現場で検証していくとともに、教職歴や専門教科、校種等の違いによってどのような効果の違いが見られるのかを調査していきたい。

【参考文献】

- 井上伸一(2011)「小学校社会科授業における評価の課題と方法」,第22回社会系教科教育学会 シンポジウム発表資料.
- 梅津正美(2013)「社会科授業研究の有効性を問うー社会科授業研究の教育実践学的方法論の探求ー」,社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第25号, pp.91-94.
- 佐藤克士・吉水裕也(2014)「科学の論理と子供の論理との統合をめざす社会科授業研究のケーススタディー小学校第5学年「日本の水産業」を事例にしてー」,兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科『教育実践学論集』第15号, pp.153-167.
- 棚橋健治(2007)『社会科の授業診断ーよい授業に潜む危うさ研究ー』,明治図書,pp.24-27.
- 田口紘子(2011)「授業者主体の授業研究の実現をめざす小学校社会科授業についての事例研究」,第22回社会系教科教育学会課題研究1 発表資料.